

街あるき防災マップの作り方

防災塾 だるま
森 清一

- 自分たちの住むまちをあらためて注意しながら歩くことで、普段は気付かないまちのいいところ、悪いところを見つけることができる。
- まちの中の危険箇所や防災設備・史跡などを探すことで、災害を他人事ではなく自分も関係のあるものと認識し、防災意識の向上を図り、行動につなげることを促す。

目的・成果

- 地域の状況を知る
- 防災への関心を高める。
- 子どもたちの総合的な情報収集能力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を養う。
- 地域の問題点を発見し、その解決策を提案する。
- 災害時の協力体制を形成する。
- 子どもたちが地域の重要な防災の担い手となっていくためのきっかけとなる。

実施の流れ

事前学習 歩いて観察する
地図を作る 話し合う 発表する

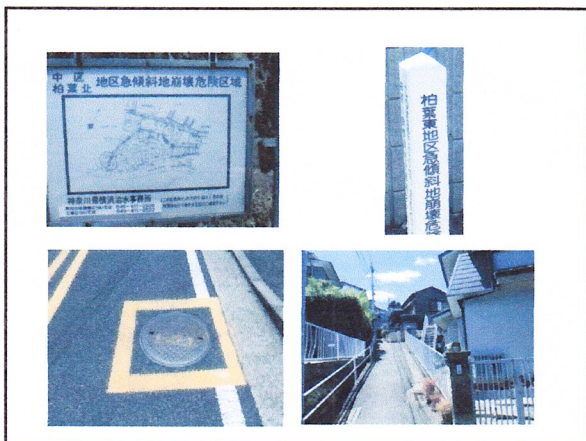
- 地域の災害の歴史を知る 資料などで地域の災害の歴史を学び、同様の災害が発生した場合を想像する
- 日射病、熱射病に注意する必要がある。帽子を着用し、こまめに水分補給するようにする。
- 街あるきで調べたことを、地図に書き込んでみる。
- 街歩きから学んだことを話し合っまとめよう。
- 学習発表会で発表しよう

街あるきの注意事項

- 調査に熱中するあまり、車に対して注意力散漫になることから、交通安全係を配置して事故防止に注意する。
- 上の方を見ていると、足元がおろそかになりがちなので注意する

街あるきでみるポイント

- 両側がコンクリートブロック塀の狭い道
- 消火栓
- 消火器
- 狭い道
- 看板
- 古い木造の家
- 公園
- お寺
- 自分が危険だと思うところ
- 自分の好きなところ



地図づくり 準備するもの

- 白地図
- マーカー4色
- (赤、青、緑、黒)
- ふせん
- 両面テープ
- 筆記用
- タウンウォッチングでメモした紙、地図

地図づくり

- 危険な場所に 赤いマーカーで色をつけてください
- その場所がどのように危険なのか、ふせんに鉛筆で説明を書いて、近くにはってください
- 自分の好きな場所に 青いマーカーで色をつけてください
- その場所がどういう場所なのか、ふせんに鉛筆で説明を書いて、近くにはってください
- 災害の時役立つものがある場所に 緑のマーカーで色をつけてください

発表内容（5分）

- 自分たちが発見したもの、初めて聞いた話、新しく知ったこと
- 自分たちの住むまちに対して感じたこと、感想を発表してください
- 他のグループが発表するのをよく聞いて、できるだけ質問するようにしてください。

中区の被害想定(元禄型関東地震)平成24年3月

- 建物全壊 4,713 半壊 6,606 総数 76,630
- 焼失棟数 11,278
- その他建物被害 全壊 24 半壊 925
- 人的被害 死者 615人 負傷者 3505
- 避難者数 58,370人 1か月後 40,002人
- 帰宅困難者数 60,366人
- 総人口 147,094人

《関東大震災の被害》

- 罹災人口 412,247人(92%)
- 死者 21,384人 行方不明者 1,951人
- 重傷者 3,114人 総人口 448,540人
- 建物被害 焼失 55,826 倒壊 18,540 (79%) (総数 93,840)
- 山下公園は、関東大震災での横浜市内のがれきを埋め立てて造った。

中区の人口

	男	女
• 総人口	147,094	77,317 69,777
• 15歳未満	15,300	7,832 7,468
• 15～64歳	93,500	49,886 43,614
• 65歳以上	30,684	15,140 15,544
• 65～74歳	16,428	9,213 7,215
• 75歳以上	14,256	5,927 8,329
• 【年齢別割合(%)】		
• 15歳未満	10.4	10.1 10.7
• 15～64歳	63.6	64.5 62.5
• 65歳以上	20.9	19.6 22.3
• 平均年齢	45.78	45.59 45.98
• 平成25年1月1日現在		

港中学校区域

- 元街小学校区域
- 中区
- 石川町1丁目、2丁目、上野町3丁目、4丁目、柏葉、妙香寺台、麦田町1丁目、元町、山下町、山手町1番地から83番地まで、89番地から103番地まで、177番地、179番地から187番地まで、189番地から202番地まで、225番地から240番地まで、246番地から261番地まで、271番地から288番地まで、吉浜町1番地

港中学校区域

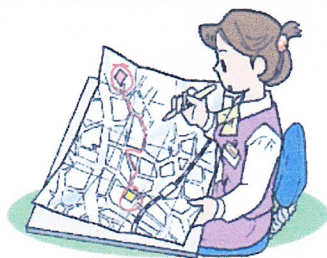
- 北方小学校区域のうち
- 中区
- 新山下一丁目、新山下二丁目、新山下三丁目、諏訪町、山手町84番地から88番地まで、104番地から176番地まで、178番地、188番地、241番地から245番地まで

● 帰宅困難者になってしまったら？

大きな地震が起こると、交通機関がしばらく運休し、帰宅が困難になります。
安全に、冷静な行動がとれるように、日ごろから準備をしておきましょう。

■ 慌てないための備えが重要です

- 無理に帰宅しなくて済むように、職場に泊まれる準備をしておきましょう。
- 帰宅せざるを得ない場合に備えて、職場に帰宅グッズを用意しておきましょう。
- 帰宅ルートを確認し、歩いて帰る訓練をしましょう。
- 家族等と、連絡手段や集合場所を話し合っておきましょう。(P8参照)



帰宅グッズの例

- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 地図
- ☐ 簡易食料(お菓子など)
- ☐ 飲料水
- ☐ 携帯電話充電器
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 雨具
- ☐ 動きやすい服装
- ☐ スニーカー
- ☐ タオル

■ 大地震が発生してしまったら…



駅前や繁華街は人が滞留し大混乱になる可能性も考えられます。むやみに移動を開始せず、正確な情報収集を心がけ、職場や学校等の安全な場所にとどまるようにしましょう。

- 被害の状況や電車の運休状況、家族の安否など、情報を集めましょう。
(情報の収集については、⇒P16)
- 幹線道路や道幅の広い道路を選んで移動するようにしましょう。
- 明るくなってから移動するなど、時間をずらし安全に帰宅しましょう。

● 災害時帰宅支援ステーションの利用

大地震が発生すると、コンビニエンスストアやファーストフード店、ガソリンスタンドなどが徒歩帰宅を支援します。右のステッカーが災害時帰宅支援ステーションの目印です。

こんな支援をしてくれます！

- 水道水・トイレの提供
- 休憩場所の提供
- 地図やラジオ等を基にした道路情報の提供

※被災状況や立地などによりサービスを提供できない店舗もあります。



● 帰宅困難者一時滞在施設の利用

横浜市では、帰宅困難者一時滞在施設を指定しています。一時滞在施設では、トイレや水道水の提供を受けることができ、「一時滞在NAVI」を使って近くの施設を検索することができます。ブックマークに登録しておきましょう。

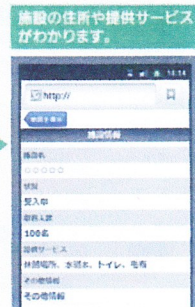


＜携帯電話版
<http://www.city.yokohama.lg.jp/b-m/>



＜スマートフォン版
<http://www.city.yokohama.lg.jp/b-sp/>

一時滞在施設NAVI



本市の帰宅困難者対策について、詳しくは、

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/kitaku/>